

大門商店街

空地

植栽

建物

道路

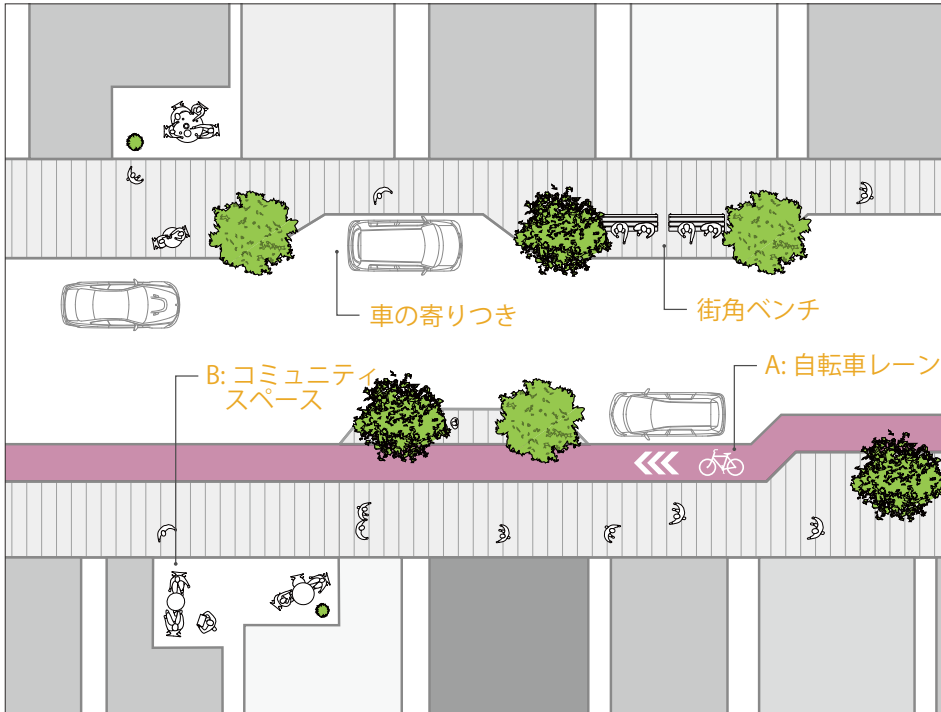
境界

パブリック

コモン

パーソナル

2つの対策で活性化



仕組み

つながり

風景

営み

愛着

安心

来訪



塩尻駅の移転といった要因で、かつての活気を失いつつある大門商店街では、増え続ける空き店舗が問題視されています。さらに商店街を貫く道幅の広い通りは、遠くまで見通せる反面、人通りの少なさが目立ち、寂しさを助長しているようにも見えます。そこで、以下の2つの取り組みを提案します。

A) 生活道路を安全に歩行するための速度規制 [ゾーン30] を設定。この取り組みの一環として、大門商店街の大通りに自転車レーンを設ける。同時に、車道をくねらせるように再計画することで自動車のスピードを緩和し、安全な歩行・自転車環境を整える

B) 空き店舗を一部オープンスペース化し、活動拠点として市民に提供する

大門商店街に上記を組み合わせせた計画 (A+B) を施すことにより、歩行者・自転車・自動車が共存できる環境を整えると同時に、オープンスペース化した空き店舗が市民活動で活性化し、新たな賑わいの風景を獲得します。